

「身体障害の方への在宅就労支援」研修会報告

平成 29年6月17日（土）、神奈川リハビリテーション病院において、神奈川県地域リハビリテーション支援センター主催の表記研修会を開催しました。この研修会は、行政・医療・福祉・教育・就労支援などの関係機関や障がい当事者やご家族の方向けに、在宅就労の実際の状況や支援の視点と現状を知っていただくことを目的として、隔年で開催しており、今回で4回目となります。参加者は、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー、介護福祉士、教員、就労支援機関や障がい当事者など約40名でした。



写真1 セミナーの様子

午前は、まず職能科・松元より「在宅就労を知ろう」というテーマで、雇用の在宅勤務と非雇用の在宅就業、テレワークに関する世の中の流れ、障がい者雇用に関する制度、在宅勤務される当事者事例を紹介しました。

続いて、作業療法士・中川より「肢体不自由の方の就労に向けて」というテーマで、安定した生活に向けた在宅就労の実現に向けた福祉用具や住環境、障がい別のパソコン・通信作業環境、働く肢体不自由者の二次障がいを講義しました。

午後は、七沢自立支援ホーム視覚障害部門・内野より、「視覚障がいの方の就労に向けて」というテーマで、視覚障がい、視覚リハビリテーション、視覚障がい者の就労状況、在宅就労事例などの講義をしました。

次に、職能科・植西より「在宅雇用に向けた就労支援」というテーマで、職能科での支援プログラム、在宅就業に関する支援機関の紹介をしました。

最後に、株式会社 NTT データだいち企画総務部事業推進担当・和山部長より、「在宅就労の取り組みと求める人財について」というテーマで、会社概要、在宅勤務の仕事内容、在宅勤務の働き方、在宅勤務で求められる人財を講義



写真2

(株)NTT データだいち和山部長

していただきました。
受講者の皆様からは、在宅勤務での障害者雇用について、企業の立場から実際のお話が聞けたことに、大変好評をいただきました。これからも職能科では、身体障がいの方の在宅雇用に関して、情報発信や相談に応じていきたいと思っております。 (松元 健)

「脊髄損傷のリハビリテーション（理解編）」研修会報告



写真 3 研修会の様子

平成 29 年 7 月 5 日（水）、神奈川リハビリテーション病院にて「脊髄損傷のリハビリテーション（理解編）」研修会が行われました。この研修では、脊髄損傷の方が安心して生活できる地域づくりを目標に、地域の脊髄損傷者の支援に携わる多くの方に参加いただきました。（写真 3）

研修会では、医師、看護師、ソーシャルワーカー、職能科職員よりそれぞれ、脊髄損傷の概要や基本的な支援などについて講義を行いました。職能科からは、主に日常生活と就労の関連性を、当事者の声や動画を交えてお話しさせていただきました。受講いただいた皆様からは「仕事をするにあたり、日常生活の安定が大事だと感じた」「実際の働いている人の話が聞けて良かった」といった感想をいただきました。日々の生活管理が安定した職業生活を支えることを、他の講義とも関連付けて、感じていただけたのではないかと思います。

（植西 佑香里）

平成 29 年度就労支援の実績		就職・復職者の人数			
職場内リハビリテーション実施人数	2017年4月～2017年7月の累計	6名	2017年4月～ 2017年7月の累計	新規就労	6名
				復職	19名

能力開発部門での復学に向けた支援

能力開発部門では、中学、高校、大学の学生の復学支援を行っています。障がいは頸髄損傷、脳血管障害、脳外傷等、様々です。

当院には、入院している小・中学生が学ぶ院内学級「かもめ学級」（県立秦野養護学校の施設訪問教育）があり、状況に応じて学校教育が受けられる場となっています。

職能科には、夏休み中を利用した評価入院を訓練目的とする方や、夏休み前の受傷等で 2 学期からの復学を目指す短期の入院期間の方がおられます。訓練内容としては、学校でのパソコン利用に向けたパソコンの技能習得や夏休みの宿題を訓練時間で行う等、ご本人の学習面のサポートを中心に行っています。短い期間ではありますが、身体機能の状況にあわせて、パソコン利用時の姿勢・体勢の確認が適切であるか等、作業療法士と連携して、環境設定を支援しています。

また、休学し長期に渡る復学支援（高校・大学）の場合は、スムーズに復学できるよう、学業やその先の就労を考えて対応をしています。個々の課題や身体状況に合わせて、学年別の学習ドリルやパソコンのテキスト学習、ワークサンプル幕張版・OA 課題や手工芸などの作業課題を導入し、訓練を行っています。

（進藤 育美）